

● 自立支援医療費制度について

平成18年4月1日から自立支援医療費制度が始まります。概要につきましては下記の通りとなります。

- ・原則として、医療費の1割(10%)が自己負担となります。
 - ・1世帯ごとの所得や疾病により毎月の自己負担額に上限が設定されます。
 - ・有効期間は1年間となります。(従来は2年間)
- 以上、ご理解の程、よろしくお願い致します。



● 診療報酬改定について

また同じく、平成18年4月1日より診療報酬改定が行われます。主な改正点につきましては、

初診料 病院の場合	2,550円 → 2,700円 (+150円)
再診料 病院の場合	580円 → 570円 (▲10円)
入院時食事療養 (I) (1食につき)	640円 (従来は1日につき 1,920円)
精神科ショート・ケア 大規模	3,300円(1日につき)【新設】

等となります。診療報酬改定について詳しく知りたい方は医事課までお問い合わせ下さい。

● 外来診療担当医表 (鈴鹿厚生病院)

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	野村	川喜田
	再診	中瀬	川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	西村	山本
	再診	小野	西浦		高山	西村
	再診					

編集後記
暖かい春の到来。新年度を迎え、皆さまいかがお過ごしですか?今回は、平成18年度医療法改正にともなう、診療報酬改定について、お知らせいたしました。さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さまと一緒に創っていきたく考えています。本誌へのご感想や、こうしたことを取上げてほしいなどのご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

理念 ささえあい、ともに生きる
基本方針
 ● 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
 ● 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 ● 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 ● 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
 ● 地域におけるメンタルヘルズに積極的に取り組みます。
 ● 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みみます。

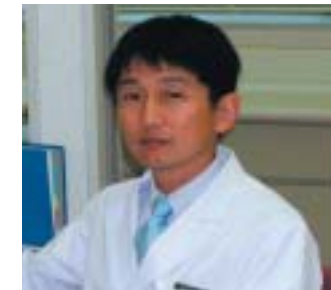
「Live Withすずか」は、当院の理念である“ささえあい、ともに生きる”からネーミングしたものです。今後も、病院の紹介・精神科疾患への理解・メンタルヘルズなどの情報を発信してまいります。
 TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402 Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さまのお役に立ちたい情報誌

臨床研修病院として。

当院は臨床研修協力型病院として将来の地域医療に貢献できるよう、日々研鑽しています。



副院長
川喜田 昌彦

臨床研修制度の改正

2004年5月から医師の臨床研修制度が新しく様変わりしました。従来のように医師免許を取ってすぐから専門医を目指すために各科に入局しての研修が、一般医として一応の経験、知識をつけるために卒業後2年間各科をローテートして研修を行う制度となりました。精神科専門であって身体疾患の救急については半人前といった私のような医師を世に出さぬようにと制度が改正されたわけです。

のではなく、時代も変わったものだと感じるとともに、社会の精神科医療に対する必要性と期待の大きさを感ずるにはおれませんが、また、当時は統合失調症といった慢性の精神病が主な対象でしたが、最近ではうつ病や不安障害といったストレス関連疾患が増えて来て、その分社会の精神科医療に対する需要が増加して来ている証拠でもあります。

指導医としての責務

当院では、鈴鹿中央病院と鈴鹿回生病院から研修医を原則1ヶ月お預かりして、総合病院では経験出来ない精神障害の患者さまの診断・治療に携わってもらい、精神障害の治療も出来るようにと指導をする事になっております。平成18年度には両病院から合わせて13名の研修医を当院で指導する事になっており単純に考えても毎月1人以上の研修医が当院に勤務する事になります。研修医に教える事は、実は大変な仕事で、正しい知識・診断・治療をフレッシュな彼らに

教えるだけでなく、経験をさせなければなりません。となると今迄自分が精神科医としてやって来た事の正否を自然問われる事にもなり、また、それらが現在のスタンダードであるか否かを問われる事になります。指導医の力量も問われる事になり、ここで間違った事を指導してしまうと彼ら医師としての将来に関係するだけでなく、やもするとこれから彼らに関わる患者さまの不利益になる訳です。そこで当院も彼らの力を借りて研鑽し病院としての、一段のレベルアップを図っていく良い機会にしたいと考えています。患者さまには、慣れない研修医が予診を取ったり、実際に診察したりするためご迷惑をかける事もあるかとは思いますが、これも日本の医療の発展のためとご理解をいただき、ご協力をお願いしたいと思います。私が研修医時代に先輩に言われた「一番の教科書は患者さまだ。患者さまから学びなさい」と言う言葉を今更ながら思い出します。

精神科医療の必要性

新しい研修制度では、精神科は内科、外科、小児科、産婦人科、地域医療と並んで必修科目となっており、医師になるためには必ず経験をしなければならない科目となっています。私が医者になった頃の精神科はマイナーな印象で、誰もが興味を持って研修したいといったも

心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

毎号
連載!

テーマ

統合失調症の薬物療法について

今回の講師の紹介



小野純子診療部長

統合失調症は、脳の中の神経伝達物質のバランスが悪くなって起こる病気です。薬は、このアンバランスな状態を改善するように働きます。治療は、薬物療法が基本で、さらに治療効果を高めるためにはリハビリテーション、作業療法などを組み合わせたほうがよいことがわかっています。

薬の種類とその作用

治療薬には、いくつかの種類がありますが大きくは ①抗精神病薬②補助治療薬に分けられます。①は、急性期の陽性症状(幻覚、妄想、興奮など)や慢性期の意欲・活動性の低下の回復に効果があります。②は、不安、焦燥をおさえるための抗不安薬や不眠の改善のための睡眠剤、気分安定剤などがあります。また、抗精神病薬の服用中に生じることのある副作用の改善薬もあります。

えっ、副作用?

「副作用」という言葉にすこし驚かれたかもしれません。どんな薬でも副作用というものは出現する可能性はあるのです。例えばかぜ薬です。服用すると鼻水やせきなどの症状はおさまりますが、人によってはぼんやりしたり眠くなったりすることがあります。抗精神病薬服用中にも、様々な副作用が出現することがあります。口が渇く、便秘、眠気、手のふるえなどがみられることがあります。こういう場合は、抗精神病薬の減量や変更、また抗パーキンソン薬や下剤を併用することもあります。

お伝えしたい大切なこと

では薬の有効性はどうでしょうか。それは医学的にははっきりと証明されていて薬を飲み続けることが症状の悪化を防ぎまた、もし悪化しても軽い症状でおさまることが多いということがわかっています。症状を安定させるためには、長期にわたって服薬することが非常に大切です。症状のみならず、もし治療中に変ったこと、困ったことなどあればなんでも主治医に相談して下さい。よりよい治療を患者さまと一緒に作り上げていきたいと思ひます。

診察室から

周囲の人たちが見守る事も必要です。

40歳代の主婦。普段から不安感が強く、過呼吸の発作や意識を失う事もあり、これまでに数回、救急車で近くの総合病院に運ばれています。今回は母と一緒にみえました。

医師:体調どうでした?

女性:また発作が2回あって。この前も救急車で病院に行きました。

医師:どんな時になりました?

女性:夫と電話した後...昨日、電話でけんかして。「お前の言っていることがわからない」「何言ってるのか、わからない」って言われて。

医師:その後のことは覚えてます?

女性:いえ。胸が苦しくなって...後は全然覚えてないです。

医師:誰か傍にいたの?

女性:お母さんが居ました。

医師:気がついたのはいつ?

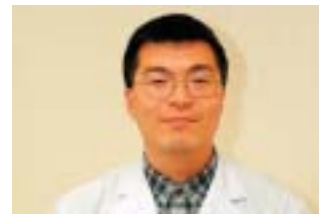
女性:病院で...お母さんから「意識がなかったよ」って言われて。

医師:覚えていないのは、心配になってこない?

女性:...いえ。

母親:このままで大丈夫ですか?

医師:大丈夫だと思います。ストレスが、体の症状で出ているんだと思います。これまでも何度か、同じような状態で内科に行かれて、ひと通りの検査は受けられてます。体に異常がないと言われてますし、恐らく今回も体の病気からではないと思ひます。



山本 昌人医師

母親:また同じことがあったら、どうしたら...

医師:まず胸の動きをみて、呼吸を確かめてください。いつもと同じような様子なら、そのあとはあまり声をかけずに、少し距離をおいて見守ってあげてください。

母親:見守っていても、心配で。

医師:もちろん御心配で大変でしょうが、その気持ちをなんとか抑えてもらうのが大事です。お母さんも辛くて、大変だとは思ひますが、〇〇さんが自然に戻るのを、待つ気持ちでください。ただ、いつもの〇〇さんの様子と明らかに違うようなら、体の病気の可能性もあるので、その時は総合病院で診てもらふ必要はあると思ひます。迷うような場合は、うちの病院に電話で相談してもらっても構いませんよ。

主治医から

強い不安で診察にみえる患者さまは、症状やその経過によって、病名や治療法が大きく異なります。また症状への自分なりの対応方法や、家族の対応も違ってきます。今回は、ストレスの強い出来事の後に、過呼吸や記憶がなくなるといった症状を繰り返している方の診察風景をご紹介します。

スマイリー・バトンリレー

vol
6



デイナイトケアセンター

デイナイトケアセンターのスタッフ

デ イケアでは、人と交流する活動、治療的なSST(社会生活技能訓練)や就労支援、季節感のあるイベント、手芸やスポーツなど様々なプログラムを取り入れています。1日の疲れを癒せるゆったりとした場であるナイトケアでは、入浴のサービスもあります。また、デイナイトケアとして1日を通しての利用もでき、一人ひとりのニーズをふまえて利用者に向けたケアを提供しています。他の医療機関と並行しての利用もでき、随時、見学や体験参加も受け付けております。お気軽にご相談下さい。

協力施設のご紹介 VOL 6

社会福祉法人ジェイエイ三重会

精神障害者地域生活支援センター「ふれあいの家」

DATA 住所:鈴鹿市岸岡町589-6
TEL:059-381-5586
FAX:059-384-0525

平成16年、ジェイエイみえ会が誕生してから地域生活支援センター「ふれあいの家」は、鈴鹿地域の家族会(すずわ会)の方々からいろいろ助けてもらい、地域支援を創りました。その後も、いろんなことを家族の皆さまと一緒に考え、いろいろな支援をするヒントや思いを教えていただき、とても助けていただいています。そこで、月1回ですが家族の皆さまの笑顔と一緒に、日々少しでも楽しいひと時を増やしていこうと、茶話会を催しています。気軽な会です。鈴鹿厚生病院の家族勉強会に参加されているご家族さまや、地域のいろいろなご家

族さま、鈴鹿厚生病院からはワーカーや中瀬先生にもちょっと顔を出していただきながら、続けています。平成18年4月からは、毎月第1金曜日14:00から16:00に「ふれあいの家」地域活動訓練室にて行っていますので、気楽にご参加ください。お待ちしております。

「ふれあいの家」南川久美子



茶話会の様子

TOPICS

作業活動「陶芸」

作業療法ではいろいろな活動を扱いますが、その中に「陶芸」があります。柔らかくて適度な抵抗のある感覚や、無機質な粘土から器などの機能を持った作品を作り上げていく過程は精神的に良い影響を与えることがあります。思う通りの作品を作り上げるのは難しいのですが、思いがけずいい作品に仕上がったりすることがあります。こんなところも陶芸の魅力のひとつといえます。

